

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	馬込ここわ保育園
法人名	株式会社ディアローグ
法人所在地	東京都渋谷区渋谷3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。2025年度はことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目をします。

<テーマの設定理由>

当園は開園以来、外国人英語講師が週2日来園し、レッスンでは保育者も生徒として園児と一緒にレッスンを受け、保育者も園児も英語は身近なことばとして存在しています。2024年度は子どもたちが同じ絵本、同じメロディの歌を日本語と英語で体験、体感することで、ことばに対する興味が広がりました。2025年度は子どもたちがさらに主体性を持って活動するように、ことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目しようと考えました。

2. 活動スケジュール

【問いかけ】保育者が動物の鳴き声についてたずねました。「この動物、なんて鳴くか知っている人?」「動物園で、どんな声で鳴いてたか聞いたことある人?」「リゼイン先生は英語の先生だけど、英語でも同じ鳴き声かな?」すると子どもたちは、「リゼインせんせいはね、えいごしかしゃべらないんだよ。でもね、どうぶつさんのこえはおんなじだよ!」「えいごとにはんごって、どうぶつのおなまえちがうでしょ?だからね、なくこえもきっとちがうんだよ!」と、思い思いに話していました。日本語と英語が違うことばであることを、子どもなりに理解している様子がうかがえました。

【流れ】英語講師が来園する日には、動物の鳴き声が登場する英語の歌を歌いその際保育者も子どもたちと一緒に活動に参加します。また、自由遊びの時間には、保育者が日本語で動物の鳴き声を取り入れた歌を歌い、英語講師も子どもたちとともに楽しみます。さらに、英語活動で使用している絵カードを活用し、みんなでオノマトペ遊びも行います。

【探究活動の実践と記録】英語活動の際には保育者が記録し、日本語活動の際には保育者とともに英語講師も記録し、特に子どもが英語を発している際のことばや音の聞き分けを担当しました。

*読み聞かせ：5歳児クラス*歌：5歳児クラス*カード遊び：5歳児クラス

*英語で工作：5歳児クラス

【振り返り・共有】毎月末には、英語講師と職員で打ち合わせの機会を設けています。その場で探究活動の取り組みを共有し、次月につなげる問いを検討するとともに、環境構成や活動計画、スケジュールについて意見交換を行います。また、保育者同士も職員会議の中で実践を振り返り、気づきや学びを共有しながら、今後の保育の充実につなげています。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】 英語講師の来園日に探究活動を行うよう環境を設定しました。

【素材】

* 同じメロディの日本語と英語の歌：「ゆかいな牧場」と"Old McDonald had a farm"

* 絵カード：動物、乗り物、オノマトペ絵カード

* 2024年度に使用した英語の絵本："The very hungry caterpillar", "Today is Monday"



4 -①. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」を保育者が日本語で歌う。英語講師も同席して一緒に聞く。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・今回この曲は全体で聞く事が初めてだったため、初めは子ども同士で目を合わせて「えっ!」「これ何の曲?」などの会話が聞こえてきたが、徐々にリズムに合わせて身体を動かしたり、歌をうたったりと楽しむ姿があった。

「英語ではどんな歌なのかな?」「動物の鳴き声は英語では違うの?」など英語講師へ質問する子どもが多かった。

4 -①. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」と同じメロディ"Old McDonald"を英語で歌う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・何回か音楽を聴き覚え、英語で歌う子どもも増えてきた。英語講師の真似をして振付を行い次に何の動物がでるか楽しみながら行う姿があった。歌の登場しない動物にも興味を示し、「猫の鳴き声はでなかったね」と言っていた。英語での動物の名前、鳴き声の違いなどに興味を示す子が多くいた。



5-①. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】2024年度からの続きで、同じメロディを日本語と英語で歌ってみることで、違う部分や、同じ部分を子どもたちが気づくようになってきた。動物の鳴き声を日本語と英語で比較してみたり、日本語と英語でどのように違うのかなど、英語と日本語の違いに興味を持つ場面が増えてきた。年長児になると、音の響き、聞こえ方と一つの歌にも、様々な角度からの捉え方に違いがあることを知り今後の保育に役立てたいと思った。

【次回への問い】英語のレッスンで使用しているカードを使い、英語と日本語で動物の鳴き声を知ることによって子どもたちはどのように真似をしたり比較するのだろうか？

4-②. 探究活動の実践（英語絵カードを英語レッスン中に使う）

<活動の内容>②英語レッスン中に"Animal"(動物)の英語絵カードを使う

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・様々な動物の鳴き声を英語講師に質問されるとジェスチャーを交えながら楽しそうに答えていた。新たな動物の名前に興味をもち鳴き声を真似する子が多くいた。最後はクイズでは積極的に手を上げ答えていた。動物（特に海の生き物）は英語と日本語と言い方が違うため英語での発音の響きに笑う子が多くいた。なんで違うと不思議と言葉にする子もいた。



5-②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】子ども達が自分でいつでも見れるようにフラッシュカードも置き自分達で遊びの中に取り入れていける環境作りをする。また子どもたちの「どうして？」という疑問をさらに広げられるよう、日本語と英語の違いを楽しみながら伝えられる環境づくりを心掛けていきたい。また、ジェスチャーや模倣など、身体を使った表現活動を取り入れながら、英語に親しむ経験を積み重ねていきたい。

【次回への問い】英語絵カードを違う種類にすることで、動物の鳴き声ではなく、また違うオノマトペに子どもたちはどのように気づき反応するだろうか？

4-③. 探究活動の実践（乗り物の擬音語）

<活動の内容>③英語レッスン中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使い、擬音語を探る

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

フラッシュカード1回目は英語講師の真似をして様子をみている子が多くいたが、繰り返し行ううちに内容を理解しおもしろさに気づき楽しんで参加する姿があった。子ども達から「Helicopter」「Train」の英語での擬音語が似てると言い、乗り物は全く似ていないのにと疑問の声があがったり、「Car」「Bus」の乗り物は似ているのに、擬音語が違う？などの意見がでていた。英語と日本語の言葉また耳から入る音の違いがわかったようだった。



5-③. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】特に、「Helicopter」と「Train」の英語の擬音語が似ていることに気づき、「乗り物は全然違うのに、どうして音は似ているの？」と疑問を口にする姿や、「Car」と「Bus」は形が似ているのに擬音語は違うことに不思議さを感じる姿が印象的であった。見た目の特徴と音の表現を結び付けながら、自分なりに比較し考えようとしていた。今回の活動を通して、子どもたちは英語と日本語では物の表し方や音の捉え方が異なることに具体的な気づきが生まれており、音と言葉の関係への興味・関心が広がっていることを実感した。

【次回への問い】今回は英語のレッスン時間中だったので、英語を学んでいることを理解している子どもたちがフラッシュカードも英語で言わなければならないと考えていた様子が見られたので、自由時間中にフラッシュカードを配置することで、子どもたちはどのようにカードを使い、英語や日本語を発話するのだろうか？

4-④.探究活動の実践（英語絵カードを自由遊び中に使う）

<活動の内容>③自由遊び中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使う

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

フラッシュカードを遊びの中に置いておくと「これやっていい!」「英語のだ!」と数名の子ども達が遊び始めた。英語で行った「Where is～」 「in the～」のやり取りを子ども同士で行い遊びを発展させていた。カードをめくり単語を言い合い当てたりして楽しむ姿があった。どの子ども達も英単語を覚えていて自信に繋がっている。



5-④. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】保育者が仲立ちしなくても、これまでの経験を活かして言葉を使おうとする姿は大変印象的であった。また、カードをめくって単語を言い合い、当て合う姿も見られ、楽しみながら語彙を確認し合う様子があった。どの子どもたちも英単語をよく覚えており、「言えた」という成功体験が自信へとつながっていることがうかがえる。今回の姿から、繰り返しの積み重ねや、遊びの中で自由に使える環境づくりの大切さを改めて感じた。今後も、英語のフラッシュカードで遊びの発展また英単語を発音、そこから英語での会話に繋げていきたいと思った。

【次回への問い】英語講師、保育者も含めて子どもたちとオノマトペの絵カード遊びを通して子どもたちは擬音語や擬態語にどのように興味を深めていくのだろうか。

4-⑤. 探究活動の実践（オノマトペ絵カード）

<活動の内容>⑤保育者、英語講師と一緒に絵カード遊びをする：絵を見て子どもたちが擬音語、擬態語を言う。英語講師も英語で擬音語や擬態語を言う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

日本語と英語との擬音語・擬態語の違いに疑問を抱く子もいた。「いらいら」「ugh」「がたがた」「thump thump」「ぐったり」「ugh ugh」などは英語講師のジェスチャーを真似ながら日本語の擬音語との一致を感じていた。

「ぎゅっと」「squish」は言葉のニュアンスで分かり英語講師と一緒に言っていた。「にこにこ」「hehe」も同様に行う姿が見られた。



5-⑤. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】 今回の姿から、子どもたちは単語として覚えるだけでなく、感情や状態と結び付けながら言葉を理解していることが分かった。言語の違いに疑問を持つ姿は、異文化への関心の芽生えでもあると感じる。今後も、ジェスチャーや表情を取り入れながら、日本語との違いを楽しみつつ伝えていくことで、言葉への興味や気づきをさらに深めていきたい。また、子どもたちの「どうして違うの？」という問いを大切に受け止め、言葉の面白さを共有できる環境を整えていきたい。子ども達は楽しく英語に接している姿を見るといろいろな英語に触れるものを遊びの中にも置いておきたいと思う。

【次回への問い】 幼児クラスは英語で工作の時間があり、英語レッスンで学んだ単語にちなんだ工作を毎月行っています。英語で工作の時は英語講師が英語で説明し、保育者も日本語通訳をせず、工作の見本を一緒に作りながら参加し、子どもたちを手伝います。2024年度に読んだエリックカールの絵本"The very hungry caterpillar"と"Today's Monday"を再度英語で読み返し、子どもたちが主体的に、自分の「1週間なに食べる表」を制作してみてもどうか？ 工作を通して、食べ物の擬態語、擬音語への興味も深まっていくのではないかな？

4-⑥. 探究活動の実践（英語で工作）

<活動の内容>⑥The Very Hungry Caterpillar、と Today Is Mondayの英語の読み聞かせを行う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「月曜日なに食べる」では順番に食べた物を単語で発音する。「string beans」の発音は難しく「beans」は、はっきり発音する。「roast beef」は日本語でも聞いた単語なので、言える子が多くいた。順番に続けて言う事は発音が難しいのか（リズムが早め）リズムに乗れずいながらも、単語は言えていた。

絵を見ながら、食べ物を知る子が多くいた。「はらぺこあおむし」を知っている子は多く最後は「butterfly」とみんなで発音をしていた。



<活動の内容>⑥その後自分の「1週間なに食べる表」を制作する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

クラフトで作成した物をクラス全体の前で発表する場面では注目される事に恥ずかしさを感じる子もいたが、保護者や講師から援助を受けると小さな声ではあったが、自分の名前を英語で言い制作物を披露。子ども達で「show me please」と友だちの発表を見る。発表時「Today is Monday」の歌をみんなで歌う。制作時には、「Can I have～」のフレーズを繰り返し言っていた。食べ物の名前の英単語はわかる物が多く自信をもち発音する。



5-⑥. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】子ども達は絵を見て単語を覚えるのは早く、保育の中でも英語の発音を普段から取り入れられるように私たち職員も身につけていきたいと思った。絵本で出てきた食べ物の英単語を使ったメニュー作りでは、子ども達の好きな食べ物また、知っている英単語が多くあり、子ども一人ひとりが楽しく取り込む姿勢が見られた。英単語や英文も少しずつ話せる時間を設けていく。

【次回への問い】子どもたちはことばには日本語も英語もあり、またそれ以外に様子を表す擬態語や擬音語もあって、しかもそれらにも日本語や英語特有の音があることに気づいたかもしれない。また園には日本語や英語以外のことばを話す友だちもいることから、日本語英語以外の世界についても興味を持ち探究活動が広げられるのではないか。